

女性のエンパワメントで高める地域の防災力  
リーダー育成事業実行団体ネットワーク

# 「防災×女性リーダー」で 地域の防災力をアップデートする

2023年9月18日(月) 12:30~14:00  
横浜国立大学 都市科学部講義棟 105講義室



MUSE PLANNING



公益財団法人  
地域創造基金さなぶり



## 登壇者・発表者



### <助成先団体>

小山内 世喜子	一般社団法人 男女共同参画地域みらいねっと	…1
矢吹 優美子	認定NPO法人 いわき放射能市民測定室たらちね	…3
藤岡 喜美子	一般社団法人 こども女性ネット東海	…5
林 久喜	一般財団法人 大阪男女いきいき財団	…7
松島 陽子	特定非営利活動法人 U.grandmaJapan	…9
中村 智砂	公益財団法人 こうち男女共同参画社会づくり財団	…11
内田 美香	有限会社 ミューズプランニング (熊本県)	…13

### <助成元組織>

鈴木 祐司 公益財団法人 地域創造基金さなぶり

### <研究者>

石井山 竜平 東北大学大学院 教育学研究科 准教授



一般社団法人  
男女共同参画地域  
みらいねっと

**小山内 世喜子** 一般社団法人 男女共同参画地域みらいねっと

休眠預金等活用事業:女性のエンパワーメントで高める地域の防災力育成事業プログラム

資金配分団体:公益財団法人地域創生さなぶり  
実行団体:一般社団法人男女共同参画地域みらいねっと



**女性防災リーダー育成プログラム～女性の参画で高まる地域防災力～**

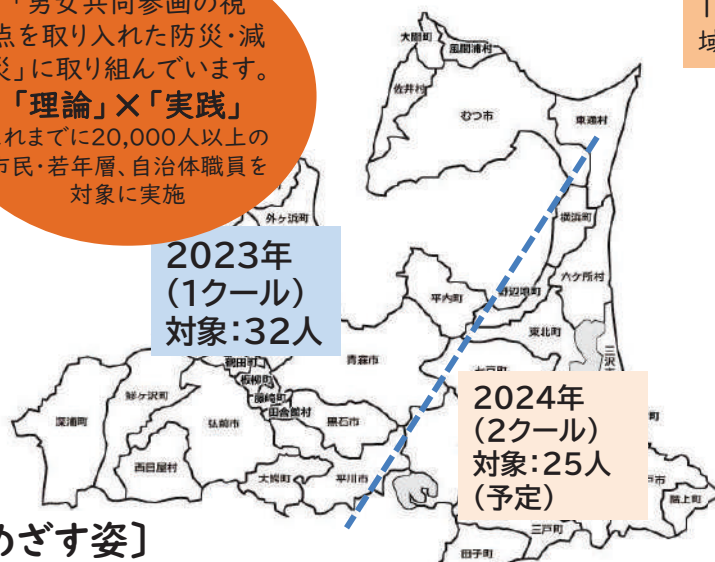
**事業目的**

実施期間:2022年8月～2025年2月

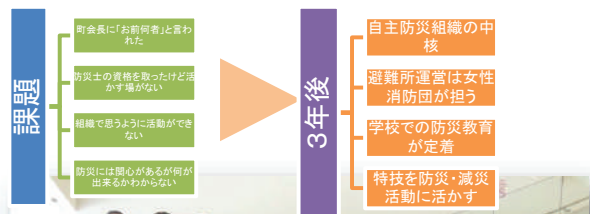
東日本大震災の教訓として、女性防災リーダーがいなかったことにより、避難所生活や復旧・復興において、女性たちや多様な人々の困難事項が増幅した。具体的には①避難所の環境改善等において女性の声が届かない、②避難所の物資面で女性のニーズに応えられない、③性被害や性暴力が増大した、④固定的性別役割分担意識が強化された、⑤一部の男性に過度な負担がかかった。また、女性(生活者)の視点の欠如により、衣食住においての整備がなされず、健康面にも多大な影響を与え、災害関連死にもつながった。

国連防災世界会議でも確認されたように、日常にあるジェンダーの不平等を放置することは、社会を災害に対して脆弱にする大きな要因となる。また、人口減少により、防災の担い手が不足しており、多様な人々たちによる男女共同参画の視点を取り入れた防災対策、地域づくりが急務である。そのような課題解決に向けて、地域防災・復興の場で女性(生活者)の視点を生かし、女性たちが地域で主体的に関わることができる女性リーダーの育成を目指す。

「男女共同参画の視点を取り入れた防災・減災」に取り組んでいます。  
「理論」×「実践」  
これまでに20,000人以上の市民・若年層、自治体職員を対象に実施



**1.地域・所属団体で「ジェンダー視点を取り入れた地域防災」のリーダーになれる女性の人材育成**



町内会、女性消防団、民間団体、会社員、災害支援ナース、PTAなど

**〔めざす姿〕**

青森県において、「防災・減災の分野の活動」に女性リーダーの参画が進む



# 女性防災リーダー育成プログラム～女性の参画で高まる地域防災力～

## 2.女性のエンパワメントを促進する「プロセス」を大切にした研修内容

学び

気づき・考える

実践

ふりかえり

アクションプランの作成

実現に向けての支援

### 研修プログラム(4/16～9/3)

#### ■A-1 交流とマインドアップ

- ・開校式、オリエンテーション、自己紹介
- ・基調講演
- ・ふりかえりとチャレンジの共有

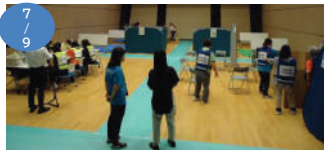
#### ■A-2 ジェンダー視点を取り入れた防災・減災についての理解

- ・「ジェンダーと防災」基礎知識
- ・災害時に必要なネットワーク
- ・ワークショップ「マイタイムライン」
- ・多様性に配慮した避難所運営訓練の企画・運営

#### ■A-3 スキルアップ講座

- ・話し合う力/ファンリレーション/ロジカルシンキング

#### ■A-4 実践：ジェンダー視点を取り入れた避難所運営訓練



#### ・インターンシップ(中学校での防災教育) イメージづくり



#### ・「学習ノート」の記入(自己評価)



#### ・欠席者へのフォローアップ(録画を見てレポート提出)

#### ■B 被災地視察(1泊2日)

- ・宮城県(石巻、南三陸)
- ・南三陸ホテル観洋(泊)
- ・震災遺構の見学
- ・女性避難所運営リーダー経験者の講和
- ・女性まちづくり団体との交流

#### フォローアップ

今後

#### ■C-1 フォローアップ支援事業

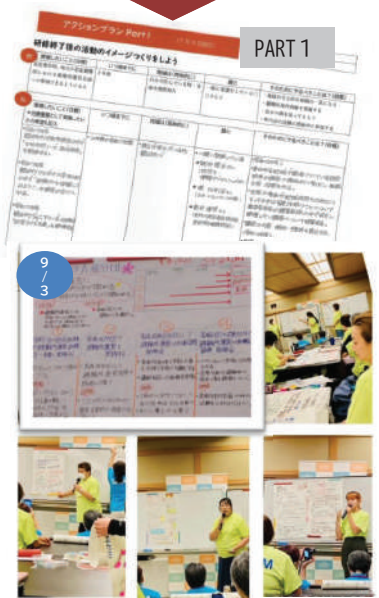
- ・共催事業として受講生団体・個人による実践事業を実施
- ・当社主催の「若年層への避難所運営訓練」へのボランティアとして参加

#### ■C-2 ネットワークの構築

- ・定期的に開催する学習会・情報交換の場
- ・SNSを使っでの情報共有・交換

#### ■C-3 フォローアップ講座

- 特別研修会「お金の集め方」
- 特別企画「防災カフェ」の開催
- 受講生同士の語り合い及び地域住民との交流の場づくり



# 女性防災リーダー育成プログラム～女性の参画で高まる地域防災力～

## 3.女性が地域で活躍するには

### ①社会の認知度を高める

#### 地域への理解促進

12/10放送

#### 〔テレビ番組の制作と放送〕

テーマ「女性の参画で地域防災力を高める」(仮称)

- 目的
- ・県民に対し、防災・減災をはじめ、地域リーダーへの女性の参画の必要性の理解と啓発
- ・本事業の県民への周知活動につなげる
- ・2クール目の受講生の募集につなげる

#### 「女性のエンパワーで高まる防災・減災連携会議」の開催(3回)

目的：地域の様々な立場の方に集まっていただき、本事業への助言及び周知と理解、協力を得ることを目的とする。

新聞やテレビニュースで紹介



### ②実践を重ねる/信用度を高める

- 実績を重ねて、自信につなげる
- パートナーシップ
- ・行政と団体をつなぐ役割



#### 中長期アウトカム

- ・ジェンダー平等の意識が高まり、互いを尊重し認めあえる地域となる
- ・地域の組織において女性リーダーの割合が3割以上になる。
- ・論理的に発言し行動できる女性リーダーと多様な人たちの意見に耳を傾けることができるリーダーが当たり前になる。
- ・「災害時の社会的脆弱性の改善」に向けた、防災・減災の取組みが県内各地で実施される。
- ・地域の防災活動に、性別や年代に関わらず、多様な人たちが参加する。
- ・女性たちのネットワークも構築され、団体(女性消防団など)や防災士の資格取得者が主体的に計画を立て地域での防災・減災活動に取り組むことや地域防災に参画することができ、地域防災に参画すること地域社会にも認知され、活動できるようになる。

2クール目に向け、動き出しています

動き出しています

実践団体でもあるみらいねっとの「つよみ」を活かしながら、活動の場を増やすことで、地域の意識を変え、女性たちが活躍できる地盤を増やして行きます!

### 誰一人取り残さない地域防災





矢吹 優美子

認定NPO法人いわき放射能市民測定室

## 認定NPO法人 いわき放射能市民測定室たらちね



たらちねは、東日本大震災による東京電力福島第一原子力発電所の事故を受け、2011年11月13日開所しました。

被災地の母親たちが、家族と子どもの命を守るため、安全な食材を求めて、始めた放射能測定室です。

その活動を、地域の有志たちが運営委員として支え続け、また全国の支援者の協力のもと現在の活動に至っています。

### 01 放射能測定

食品・水・海水・土壌・資材などの放射能測定を行っています。  
測定核種は、Cs134/137、トリチウム、ストロンチウム90、です。



### 02 クリニック

内科、小児科の他、無料健康診断（尿中セシウム測定、WBC測定）を行っています。



### 03 出張甲状腺検診

福島県内及び近隣地域で、甲状腺検診を実施しています。



### 04 子ども保養

安心できる自然の中で、子どもたちの身体と心の健康の回復のための保養を実施しています。

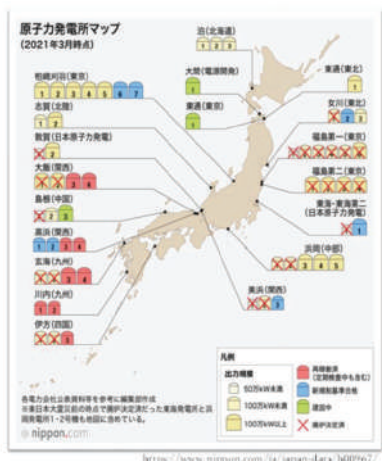


### 05 こころのケア

こころの平穏を取り戻せずにいる母子を対象に、子育ての相談を受けています。



日本には、今これだけの原子力発電所があります



原発は稼働してなくても、自然災害により深刻なダメージをうける可能性を秘めています。防災の手引きとして、いろんな災害を知って備えようと政府がHPに載せている中に、原発防災が入っていません。



こちらは内閣府の防災ページです。お役立ち情報から一般向け、防災の手引きをクリックすると



原発事故が入っていません。もし、事故が起きた時、また福島の時のように、人々が右往左往してしまいます。



そこで、たらちねではHPで、**防災 原発事故の心得**を載せています。また、この防災を事故が起きる前に当たり前のように知る必要があるのです。

## 災害、そして原発事故は突然起きるもの。 その時、みなさんは子どもや家族をどう守りますか？

東日本大震災発災後、「たらちね」は地震・津波・**原発事故の複合災害現場**で女性たちが市民科学を駆使し、子どもと家族、そして地域の人々の心と身体を守るために活動してきました。

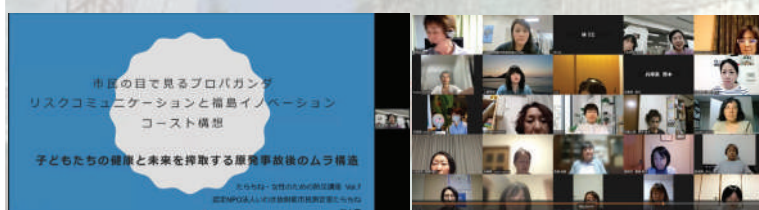
今、日本では、千島海溝巨大地震、南海トラフ大地震など、大規模災害が起きることが予測されています。それは、明日起きるかもしれない、そんな不安があります。

311で「たらちね」が経験したこと。それを、みなさんの暮らしに役立たせるため、女性の立場から女性のみなさんにノウハウを共有したいと思っています。

「**知っていれば、何かの時に役に立つ**」私たちと一緒に知り・見て・感じてみるプログラムとなっています。

### 実施プログラム 1

知る・学ぶ編 \* 被曝を知る・防災を考える・福島の間を見る



### 実施プログラム 2

実習編 \* 放射能を測定する・甲状腺検診の現場を知る





Child & Woman  
Net TOKAI

藤岡 喜美子

一般社団法人 こども女性ネット東海



たすかる犬



たすける犬

一般社団法人  
こども・女性ネット東海



【目的】こどもの権利を保障し、こどもと女性の人材育成に努め、こどもと女性の主体的な参画と多様で多彩な主体者による連携・協力により、新たな地域のコミュニティを醸成していくことを目的としています。

【活動】日ごろより、こども女性目線で防災・減災の活動等

「たすかる」活動を行います。

また、被災地も含め「たすける」活動を行います。

私たちの活動は、被災地外の災害NPO等によるレスキュー的な活動ではなく日頃からNPO等や専門家がつながり、質の高い活動を行い、災害発災後も、できるだけ早く日常に戻すための活動です。

任意の小規模避難所のネットワークづくり



登壇者：藤岡喜美子（一般社団法人こども女性ネット東海執行理事）



市民、行政、企業の3つのセクターに身をおいた経験から新しい社会システム構築に向けての政策提言や活動を行う。女性や社会性重視の組織の起業支援・経営支援や女性の人材養成を積極的に行う。東日本大震災や熊本地震において被災地支援を行い、災害時においてこどもと女性目線が重要であることから2020年一般社団法人こども女性ネット東海を立ち上げる。内閣府新しい公共の推進会議委員など政府委員や基礎自治体審議会委員など歴任。著書「稼ぐNPO」「こどもと女性に安心な任意の避難所開設のためのハンドブック」



# 女性防災リーダーの現状と課題



## 愛知県避難所運営委員会規約(平成30年3月改定)

第5 委員会に、委員の互選による会長1名、副会長 名を置く。2 会長は委員会の業務を総括し、副会長は会長を補佐する。3 避難所利用者の半数を占める女性の要望などを的確に把握するため、会長、副会長のいずれかは女性から選出する。

## 基礎自治体避難所運営マニュアル

避難所運営委員会の構成員の中から、会長、副会長を選出する。なお、会長・副会長のいずれかに女性を選出するように**努めます**。  
構成員のうち、女性の割合が3割以上となるよう**努めます**。

なぜ努力義務？

リーダーをやらうとする女性  
がいないと思い込んでいる。

**めざす姿**：女性が避難所運営委員会等の委員、長副委員長に就任するだけでなく、地域の多様な民間組織で自立的にゆるやかに繋がり重層的に活動できる女性リーダーが増えている

- ・東海地域伊勢湾岸8自治体 ひとつの自治体で5名から10名の女性防災リーダー養成を行う
- ・地域で出る釘は打たれる。みんなで出れば打たれない。出すぎた釘は打たれない。
- ・**リーダーズ**の力ひとつの自治体内の繋がり、市町村を超えた繋がり、県域を超えた繋がり。
- ・互いに愚痴を言い合い、ともにアイデアをだし、化学反応をおこして、とにかくやってみる。
- ・本気の養成講座だからいつも本音の話をしよう。できる人ができるときやる。
- ・受講決定前にすべての受講生と面談している(シーズを感じる)
- ・受講生も多様で多彩(年齢、活動歴、地域)
- ・アーカイブ、補講など、被災地視察の時もできるだけ受講生に寄り添う。
- ・CWNTはそもそもサードセクター組織の人材養成、チーム力向上支援の実績がある



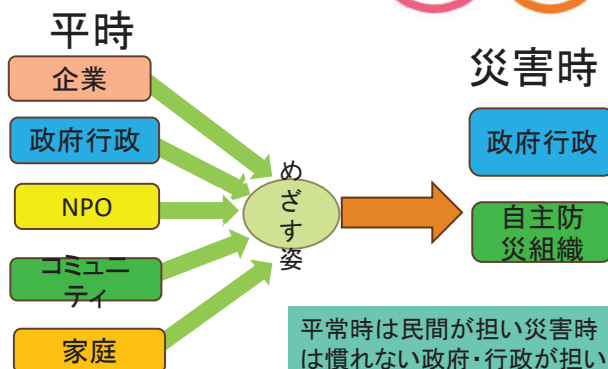
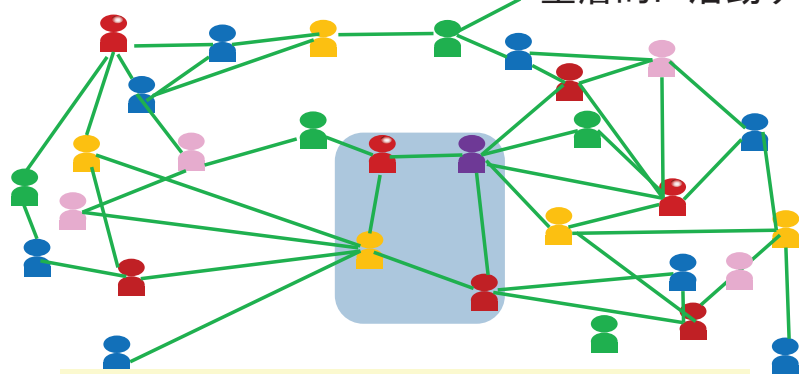
2023年5月15日(月)  
岡崎市長訪問  
自治体防災力向上のために女性防災リーダーの養成・推進への協力関係の構築に関する意見交換会(岡崎市の関係者)

2023年9月1日(金)  
協定に関する意見交換会(岡崎市の関係者)

2023年12月23日(土)  
岡崎市内にて防災シンポジウム計画中  
ゲスト：田村太郎先生  
(協定締結印刷も同日予定)

地域防災力向上のためにはトップダウン型組織ではなくネットワーク型  
地域には日頃から多様で多彩な活動をしている組織がある連携し

重層的に活動する



平常時は民間が担い災害時は慣れない政府・行政が担い手になる

企業やNPO等も行えるようにする  
災害救助法の一部改正必要ではないか

- ・ヒエラルキー組織の管理ではない
- ・現場での民間組織のウーダグループを可能とする
- ・他の民間組織とのゆるやかなネットワークづくりが必要  
→だからこそ女性防災リーダーが必要

目の前の困ったをほっておけない  
多様で多彩なサードセクター組織  
が重層的に活動している  
もしものことも想定して  
企業、学校、行政と  
連携協力している



できるだけ早く  
日常に戻す

平常時の活動の専門性を生かし  
安全だけでなく、安心な環境をつくる

新しい地域づくりへ



一般財団法人  
大阪男女いきいき財団

林 久 喜

一般財団法人 大阪男女いきいき財団

誰もが自分らしくいきいきと輝ける社会へ



一般財団法人 大阪男女いきいき財団

Osaka Gender-Equal Community Foundation (OGCF)



大阪男女いきいき財団は、1993年の設立以来、ジェンダー平等、男女共同参画の推進に取り組んでいます。

▶ 研修・啓発事業

女性のキャリア形成や両立支援、DE&I、防災等  
受講者数：年間1万人

▶ 相談事業

職場や家庭の人間関係、子育てやキャリア等  
相談件数：年間2万件

▶ 調査研究事業

男女共同参画に関する市民意識調査や  
職場のハラスメントの調査など

▶ 大阪市内男女共同参画センターの運営



NEW!

いいね！ #ジェンダー平等フォトメッセージコンテスト

女性や育児・介護中の人、障がいがある人など多様な立場の人が関わる防災！  
アイデアや経験を広げたり、シェアしたり、安心できる素敵な未来を一緒に創りませんか。

#ぼうさいカルタに夢中♡

#赤ちゃんの防災リュック



## 大阪における「防災」「女性リーダー」の現状と課題認識について

◆地域コミュニティ（自主防）をベースとしつつも、乳幼児の保護者といったテーマ型のコミュニティや職域といった企業など多様なコミュニティへの活動の展開

◆女性リーダーを発掘、育成し、アクションできる支援の仕組みづくりと運用

防災分野の活動 (自主防)	防災・復興への女性の参画促進 (大阪市)	都市としての大阪
<ul style="list-style-type: none"> <li>●活動           <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報収集・伝達</li> <li>・避難・避難所開設・運営</li> <li>・炊き出し、物資の確保</li> <li>・初期消火 など</li> </ul> </li> <li>●体制           <ul style="list-style-type: none"> <li>・世帯単位で構成</li> <li>・町内会・自治会会長が管理や運営の責任者</li> <li>・会長が兼任または推薦した地域防災リーダーが活動を担う</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●活動           <ul style="list-style-type: none"> <li>・大阪市防災会議の委員比率向上（女性28.3%）</li> <li>・地域防災リーダーへの参画促進（女性19.3%）</li> <li>・勉強会、訓練等での周知</li> <li>・事例の共有</li> <li>・避難所運営のリーダーへの配置の点検 など</li> </ul> </li> <li>●体制           <ul style="list-style-type: none"> <li>・大阪市危機管理室、市民局、区長会議（24区）</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●現状           <ul style="list-style-type: none"> <li>・中心区のマンション化（M居住率：73.9%）</li> <li>・周辺区の過疎化（人口減少、学校の統廃合）</li> <li>・町内会離れ（町内会加入率：平均50%以下）</li> <li>・女性の就業の増加（現役世代層就労率：75%以上）</li> <li>・コミュニティの多様化（テーマ、オンライン）</li> </ul> </li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・男性が中心の社会構造</li> <li>・先導・管理型のリーダーシップ</li> <li>・炊き出しや救護などの補助的役割への女性の偏り</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防災知識の普及</li> <li>・女性防災人材が少ない</li> <li>・働きかけや啓発以外の防災施策の強化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既存の地域コミュニティ（自主防）への市民参画に依拠</li> <li>・多様な人材を活かしきれていない（女性、若者、企業等）</li> </ul>

## 地域の防災力をアップデートするために

### 地域防災女性ファシリテーターの養成

既存の自主防災組織中心の防災のあり方ではなく、地域のステークホルダーと連携して、オープンな場を形成していく人材

#### ◆地域のジェンダー課題の改善

- ジェンダー平等の視点及び多様性に配慮する視点を学ぶ
- リーダーシップを発揮し行動できるようになる
- 様々な地域の方を巻き込んで協働しながら地域社会を変えていく

#### ◆受講者による29のアクションを展開

- 防災ネットワークの構築
- 地域の防災力のアップデート＝災害時の危機と被害の回避

### 事業概要

期間：6月～11月（全12回）

受講者：29名  
 地縁型8名  
 テーマ型NPO等8名  
 企業・財団7名  
 行政・公共6名





松島 陽子

特定非営利活動法人 U.grandmaJapan

①

団体の紹介

## 特定非営利活動法人U.grandmaJapan



平成30年7月豪雨災害をきっかけに団体を設立。

今、**私たちにできること**と動き始め翌年6月に法人として活動を始め課題を見つけ生活に密着した支援をしながら、人と人をつなぎ、紡いぎ住んでよかった町づくりのために行政・社協・企業と協働連携しながら歩んでいます。



災害支援

生活再建  
炊き出し  
支援



中間支援

人と人をつなぐ



こども食堂

地域コミュニ  
ティ・  
子どもの  
見守り



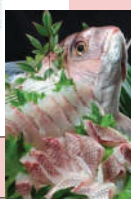
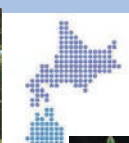
フードバンク

孤独・孤立



人材育成

女性防災  
リーダー  
食支援人材



宇和島

②

宇和島の現状と課題



① 防災リーダー講座の特徴



視察先の  
事前情報  
講座  
現在の意気込み  
コーチング伴走支援

視察研修（団体  
との交流）



女性リーダー  
のエンパワ  
メント・スキル  
アップ講座

班ごとのイベント  
企画のプレゼン



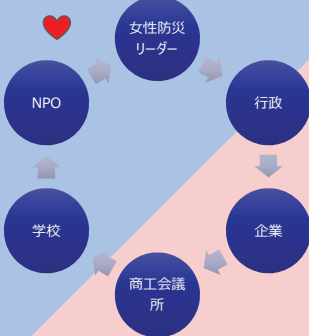
**@参加者の多様性と当初より班行動（多様な地区・多様な年代）**  
 中学生 3校区 高校生 1高校 行政・企業・商工会議所・NPO参加  
 すべての講座に危機管理課・教育委員会・市民協働課等市との連携にて運営  
 他団体との交流会

②課題：修了後のフォローアップについて

@この1期生が今後活動していくにあたりどのようにネットワーク化しその他の団体との取り組み連携していくうえで当団体がどんな役割をしていくか。（きっかけ）  
 @自分たちの住んでる地区の避難所はどのようになっているか、考え参画していく。

③

今後の展望



わがまちの女性防災リーダーが目指すこと



ジェンダー視点を取り  
入れたまちづくり

修了者の活躍の  
場づくり

修了者のサポート  
ライングループ  
にていつでもつながっている

つながり

- 1期生 2期生とのつながりをつくるための交流場づくり

連携

- 多様な人との取り組みやサポート
- アドバイス
- 継続の学び

協働

- 市民協働について
- 市への参画



中村 智砂

公益財団法人こうち男女共同参画社会づくり財団

1

## 団体の紹介

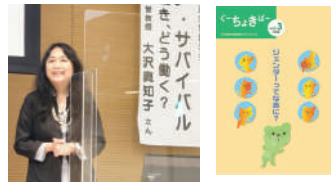
### (公財) こうち男女共同参画社会づくり財団の沿革

1998年設立、1999年からこうち女性総合センター(現「こうち男女共同参画センター」)の管理運営を受託。現在、同センターの指定管理者。  
2012年公益財団法人に移行している。  
(職員数) 11人 (うち高知県、高知市派遣職員 3名、県職員OB 1名)  
男女共同参画社会の実現のための様々な事業を行う。



### 財団事業

- ① 情報の収集及び提供  
図書の貸出し (ジェンダー視点の本やDVD)
- ② 調査研究  
統計データ分析、WEB調査など
- ③ 広報及び啓発  
情報紙、啓発誌を発行
- ④ 講演会や講座の開催  
会場・オンラインでセミナーを実施
- ⑤ 人材の育成  
女性の活躍を応援する講座、防災分野の女性リーダー育成など
- ⑥ 女性の抱える問題解決のための相談  
女性ための様々な相談、男性のための悩み相談、LGBTSIに関する相談
- ⑦ 活動団体等の交流促進及び自主活動の支援  
交流イベントの開催、活動団体への事業支援等

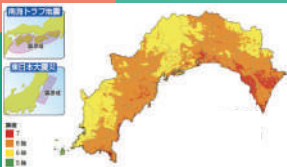


2

「防災」「女性リーダー」に関する現状、課題



1946年12月21日に発生したマグニチュード8.0の地震による建物の倒壊(高知市)



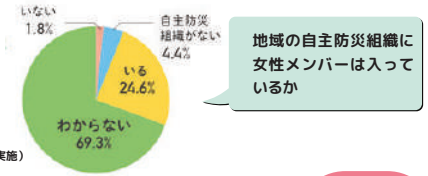
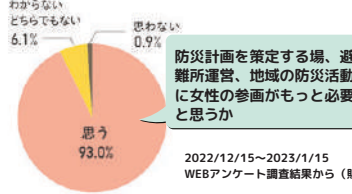
1 防災に関する現状と課題

高知県内の防災士資格取得者 5,452人  
うち女性防災士 1,605人 (全体の29.4%) (2022年5月末現在)

■防災士の女性割合  
津波被害が予想される海沿いの自治体の中には、女性の割合が10%、20%の市、町があり、女性の参画には地域差が見られる。

近い将来必ず起こるといわれる南海トラフ地震への減災、防災の取組が地域においても活発に行われているが、女性の参画状況は限定的であり、地域差が見られる。

■防災への女性参画に関する県民意識  
女性参画の必要性は強く認識されている一方、具体的な取組や活動の現状は知られていない。地域活動に女性の声が十分届いていないことも懸念される。



2 女性リーダーの育成に関する現状、課題

■人材育成事業の実施  
・防災分野の女性リーダー育成を目的とした人材育成講座「女性防災プロジェクト」を実施 (2017年~2022年)  
・修了生(約40人)が活動組織を立ち上げ、地域でさまざまな啓発活動を展開している。

講座修了生と自治体や地域団体との連携が進んでいない。活動が県内全域に広げるためには、フォローアップ体制の強化が必要。

ここからが課題

知識の習得・受講生

WS支援

修了生として支援活動・講座のサポート

こうち滅災女子部の活動  
・防災活動の実践、発信  
・ネットワークづくり  
・被災地との交流など

3

地域の防災力をアップデートするために



1 「女性防災プロジェクト」(2023-2024)の特徴、めざすこと



2 修了生の持続的な活動に向けて

防災計画の協議や暴力防止対策への参画など、平常時の備え、初動段階、避難生活、復旧・復興の各段階において、男女共同参画の視点を取り入れられるようセンター事業を展開する





# MUSE Planning

内田 美香

有限会社 ミューズプランニング

## ①団体の紹介

### 有限会社ミューズプランニング

1997年、育児サークルを母体にして編集プロダクションミューズプランニングを創業。2003年に法人化を果たし、子育てや暮らし、健康など、社会参画をめざす女性のために役立つ情報や企画を提案・発信。2010年熊本県ひとり親家庭等在宅就業支援事業の受託をきっかけに、テレワーク推進、男女共同参画推進、子育て支援などにも取り組む。

2016年の熊本地震では、発災直後から熊本市の男女共同参画センター（指定管理）として、性被害防止の啓発や避難所の環境改善に取り組んだ。その後も県内外での啓発事業を行いながら、男女共同参画の視点を活かした防災・減災の周知に務めている。

令和4年、創業25周年を節目に、熊本地震の被災地である益城町において女性と子どもの居場所づくりをスタート。「すべての女性が自分らしく輝ける社会の実現」を目指している。



### ビジョン:すべての女性が自分らしく輝ける社会へ

#### 企画・制作・編集デザイン

子育て情報誌・生活情報誌・男女共同参画啓発誌

#### 女性の自立支援・人材育成事業

男女共同参画の視点に立った防災出前講座

女性防災リーダー育成プロジェクトRin

くまもとチャレンジャーAWARD



#### 指定管理・委託事業

熊本県民交流館パレア男女共同参画センター

熊本市男女共同参画センターはあもにい

熊本市ファミリーサポートセンター



#### 社会貢献事業(一社)ウィメンズ・フォーラムくまもと)

益城町女性活躍推進事業ましき女性みらい塾

親と子の居場所づくり



②「防災」「女性リーダー」に関する現状・課題



①熊本地震を経験したにも関わらず、男女共同参画の視点での防災の必要性に関する県民の意識も低く、行政においても具体的な取り組みが行われていない (R元年熊本県男女共同参画に関する県民意識調査)

③被災時の支援団体の活動が継続しておらず、今後に向けてのネットワークの構築に至っていない

②防災会議における女性委員の割合が低い

(熊本県防災会議における女性委員比率12.3%。熊本県内市町村の防災会議女性割合平均値7.3%、震源地である益城町5.9%)  
※2022年内閣府見える化マップ

④女性防災士は少しずつ増えているが、活躍の機会が少ない



Muse Planning

③「地域の防災力をアップデート」するために各団体の事業の特徴・めざすこと

①被災地・益城町でのリーダー養成講座の実施

②修了時に防災イベントの企画・運営を实践  
1期:親子防災ワークショップ

③男女共同参画センターとの連携事業  
(年3回「男女共同参画inパレアワークショップ」)

④修了生の各地域での啓発活動のサポート

⑤県内自治体への事業報告・提案など働きかけ

⑥防災士会や消防団、子ども食堂や災害支援団体、男女共同参画推進団体などとの連携機会の創出

防災会議における女性委員0の自治体をなくす

防災女性リーダー50人のネットワーク化  
防災支援のネットワーク構築

男女共同参画の視点を取り入れた防災活動の事例が増えている



Muse Planning





問合せ先：女性のエンパワメントで高める地域の防災リーダー育成事業実行団体ネットワーク事務局  
 窓口：地域創造基金さなぶり TEL 022-748-7283  
 大阪男女いきいき財団 TEL 06-7656-9040